

平成 29 年度長崎県立大学COC事業評価報告書【全体評価】

1. 事業実施計画

○平成 29 年度

最終年度であり、地域との取組内容の総括を行い、県内の自治体および地域おこし等の関係者向けに成果報告会を開催する。特に、成功事例については、この報告会の中で学生を中心に発表を行い、県内他地区への波及ができないか検討を行う。

平成25年度より構築したeラーニングシステムのうち、モバイルラーニングについては、前年度の試験的運用の反省を踏まえて、正式稼動する。学生や地域住民向けに広報を行い、先進的な学びのシステムが完成したことを、ホームページ等で周知する。

その他、これまでの取組事項で補助期間終了後も継続して実施するものについては、大学独自で予算化を検討する。その他取り組む事項については、以下のとおり。

2. 推進本部自己評価

平成 29 年度の事業実施計画と事業の実績および成果を総合的に鑑みて目標を達成することができたか。

評点： III

○判断理由

事業の実績

- ・全学科の学生 707 名が、前期の必修科目として「しまなび」プログラムに参加し、7つのしまで4泊5日のフィールドワークを行った。フィールドワーク中の4日目には、現地報告会をそれぞれのしまで開催し、地域の方々との意見交換等を行った。さらに、後期には 10 月の3日間で学内報告会を開催した。
- ・「しまなび」を前年度までに経験し、継続して活動してきた学生6名および今年度 10 月の学内発表会で学生からの評価が高かった 10 グループの活動報告を中心に、11 月 23 日にCOC事業総括シンポジウムを開催した。このシンポジウムは佐世保校とシーボルト校、およびフィールドワークを行った7つのしまを遠隔システムで結んで9会場を中継して実施した。
- ・eラーニングシステム「manabie」の運用は3年目を迎え、H28 年度実施結果をもとにさらなる機能追加を行い、正式稼動を行うことができた。また、前期の準備段階におけるアクティブラーニングや、フィールドワーク中のモバイルラーニングにおいて、大きく貢献できた。
- ・大学ホームページ内に、「しまなび」プログラム用の特設サイトを立ち上げて4年目を迎えた。専用のバナーを設置し、ユーザビリティ向上に努めた。サイト内では、年間を通した学生の活動の様子を報告し、「manabie」を利用して取り組んでいる様子をわかりやすく公開した。
- ・学生の調査やフィールドワーク等の成果の中で、実際に活用できそうなものについては、問題点や改善点などを現地の関係者と協議し、実現に向け複数のグループで活動を継続することができた。

○事業の成果

- ・フィールドワーク中の現地報告会では、成果をわかりやすくまとめて発表する能力や地域の方々との意見交換等により、学生のコミュニケーション力も身につけることができた。また、学内発表会に向けた準備の中では、各グループで協議し、資料等を作成する中で協調性や発信力などを涵養することができた。
- ・11月のシンポジウムでは、継続して行った学生の活動内容や成果・課題の報告ならびに今年度の参加学生による活動報告が行われた。さらに、「しまなび」の将来について、文部科学省、自治体、「しま」の協力者や高校生から、多くの意見をいただくことができた。これらを通じて、研究を継続していくことの重要性を再認識できた。
- ・「manabie」の運用において、学生の活動への貢献に加え、教職員の事務軽減、また、学生としまのコーディネーター間の連携が円滑に行うことが可能となった。さらに、昨年度までの合格・不合格の2段階評価から、出席の状況、報告物の提出状況、および学生自らが学生個人の活躍度を相互に評価する「ピアレビューによる評価」を基に5段階(A・B・C・D・F)の評価が可能となった。このことにより学生の活動度が把握できるようになるとともに、本プログラムの課題も把握できるようになった。また、グループ活動において、積極的に活動する学生の増加が見られた。

3. 評価委員会評価

平成29年度の事業実施計画と事業の実績及び成果を総合的に鑑みて目標を達成することができているか。

評点： III

○判断理由及び意見

項目別評価結果

| | IV | III | II | I |
|---------|----|-----|----|---|
| 1. 教育 | 2 | 5 | 0 | 0 |
| 2. 研究 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| 3. 社会貢献 | 0 | 6 | 0 | 0 |
| 4. 全体 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 合計 | 2 | 19 | 0 | 0 |

・実施計画の項目別の評価結果については、「IV」が2項目、残りの19項目は「III」であった。

・平成29年11月23日開催の「しまなび」成果報告会では学生たちの発表から、工夫した取り組みをしているということが感じられた。また、参加者の増、発表内容や地域課題解決の参考になったというような地域関係者からの評価を受けた点に関しても評価に値する。

成果報告会では文部科学省、自治体、「しま」の協力者や高校生から多くの意見があった。内容としては、「しまなび」で取り組んでいる内容の、ある一つのものについてさらに進化させて継続していくべきだというものや、学生に対する教育効果だけではなく「しま」にとってのメリットをもう少し考えてもらえるといいというもの、「しまなび」経験者の先輩の活用を考えたいというものなどが挙げられた。

今後も継続的に取り組みを行うことで、事業内容をブラッシュアップしながら具体的な課題解決に取り組むことができるため、学生にとっても「しま」の方々にとっても良い影響があると考えられる。

- ・「manabie」の運用において、学生やしまのコーディネーターの方々から使いにくいとの意見が挙げられていた箇所に関して改善を行ったことは評価に値する。
「manabie」使用についてのマニュアル作成やコーディネーターとの連携機能を搭載したことにより、学生、コーディネーター及び教員のやり取りをより円滑に行うことができるようになったため、「しまなび」の活動に良い影響を与えることができた。
また、しまなびプログラムの評価制度について、ピアレビューを取り入れたことにより、個々人の活動の活性化、グループ活動の推進に繋がったことも評価に値する。
- ・平成 29 年度の活動については、順調に実施されており、全体評価としては自己評価通りの「Ⅲ」が適当である。